

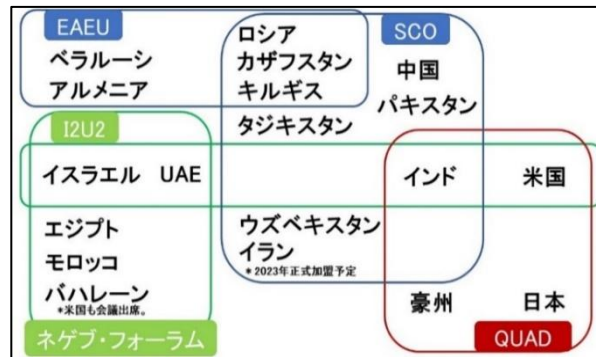
令和7年度外交・安全保障調査研究事業費補助金（調査研究事業）
「中東ユーラシアにおける日本外交の役割——国家間競争の時代における
大国主導の連結性戦略と地域秩序再編の実態解明」

事業成果①
的確な情報収集

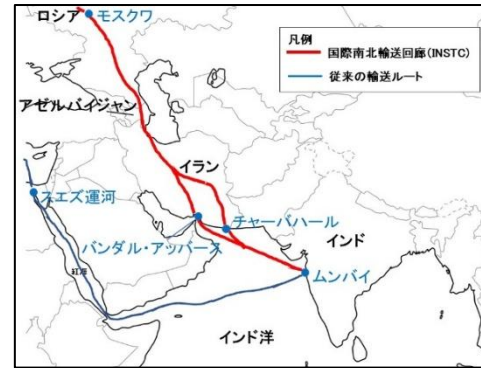
米国の影響力が相対的に低下する一方、ロシア、インド、中国は中東ユーラシアへの関与を強め、国家間競争は一段と激化している。こうした情勢認識の下、本事業では、大国主導の連結性戦略と地域秩序再編の実態解明に向けて、以下の二つの柱に沿って調査研究を実施した。最終年度は、これまでの調査研究の蓄積を踏まえ、両テーマに関する分析を深めるとともに、成果の取りまとめと発信を行った。

①地域主導型外交の実態解明に向けた調査研究

②国際南北輸送回廊の実態解明に向けた調査研究



図表1 中東ユーラシアにおける地域機構・各国協力枠組みの概観



図表2 INSTCの経路概観



バクーのMilitary Trophies Park（軍事戦利品公園）入口



↑ UAEのシンクタンクにて有識者との意見交換

文献・資料
聴き取り
意見交換

- 各国の対外政策の原則・基本方針、ならびにその中での中東ユーラシアの位置づけについて、文献・資料調査を進めるとともに、研究会（年4回）で継続的に報告・検討を行った。
- ガザ危機の地域情勢への影響を検証するため、UAE（令和7年7月）、サウジ、パハレーン（同7月）、ヨルダン、トルコ、アゼルバ

- イジャン（同11月）、カタール（同12月）で現地調査を実施した。
- 最終報告①として『中東ユーラシアから世界を読む』を発刊。（令和7年12月）
- 12月11日最終報告②として、公開シンポジウム「中東ユーラシアにおける日本外交の役割」（令和7年12月）を実施。

⇒文献・資料調査、現地調査、研究会の組み合わせによる地に足の着いた調査研究



公益財団法人中東調査会

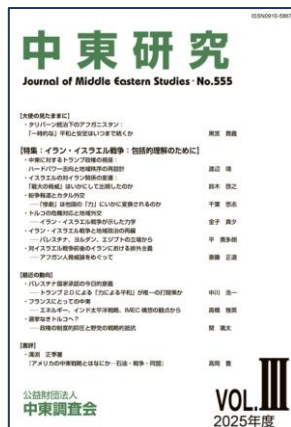
令和7年度外交・安全保障調査研究事業費補助金（調査研究事業） 「中東ユーラシアにおける日本外交の役割——国家間競争の時代における 大国主導の連結性戦略と地域秩序再編の実態解明」

事業成果③ 成果発信

- ・MEIJコメンタリー（日・英）で本事業の調査研究成果をタイムリーに発信。本年度は2月28日以降のイラン情勢を受け委員全員の連続コメンタリーを発行（1～25号の総ページビュー数は96,298件）。
- ・機関誌『中東研究』、『中東分析レポート』とも連動させ、本事業の成果を発信。



↑ 成果発信プラットフォームとなる
ホームページ（日・英）。



↑ 学術誌『中東研究』
（年3回発行）の刊行。



↑ 最終成果①『中東ユーラシアから
世界を読む』（岩波書店）を発
刊。



↑ 最終成果②公開シンポジウムを開催。参加者は約
150名。終了後、出席者全員にて記念撮影（12
月11日@日本記者クラブ）

他にも調査研究の質の向上と成果の伝播に向けて様々な取り組みを行った

若手、女性、地方在住研究者
の積極的登用

研究会委員 計10名
その内、
若手 1名
女性 5名
地方在住 1名

研究内容及び研究者の見える化



- ・ 研究委員の顔写真の掲載
- ・ 研究員の研究内容の公開

年4回の研究会開催
クラウドを用いた情報共有



現地調査、文献・資料調査、研究会、
及び、成果発信の連動

